

地球環境への取り組みが喫緊に迫られている。「庄内菜の花の会」は、環境の取り組みを「人の『環(わ)』」としてとらえ、単独で環境保全に取り組むだけでなく、連携、協力しながら取り組むことを大切にしている。会がめざすのは、地球環境に優しい地域づくりである。

テレビでは「菜の花咲きそろろう」という便りが、新年早々に南の国から届けられる。「菜の花」は、まさに新しい年の幕明けを告げる花である。

今、地球環境を取り巻く問題は山積し、温暖化防止、二酸化炭素排出削減、そして地球にやさしい取り組みを行うこと、省エネルギーの生活様式に改革することなど、国をあげて明確に認識しなければならない年明けが一刻も早く必要となっている。地球は環境という「菜の花」の開花を待ち望んでいる。

環境保全は連携・協力で

「庄内菜の花の会」は環境保全や資源循環型社会の形成を目的とし、昨年8月に設立された。会の結成前から、三川町では、菜種油の有用性の活用拡大と休耕田・耕作放棄地の増加を食い止めたいという生産者の願いにより、菜の花を栽培し食用油として販売が行われていた。それが「菜の花」を町の花として定着することにつながり、今では例年盛大に「菜



小学校での環境学習の様子

仲間と取り 目指すは地球に

の花まつり」が開催されている。

これまで各方面で、菜種油の有用性の活用拡大のさまざまな取り組みが進められてきた。私の会社では廃棄物として処分される廃食油を有効利用するため、いち早く廃食油の回収事業に着手しバイオディーゼル燃料（BDF化）を実現してきた。また他に、障がい者等の就労の場を確保したいと願う人たちの廃食油による「リサイクル粉石けんづくり」も産声をあげようとしていた。さらに、私有農地に昔ながらの自然豊かな環境学習施設を設け、広く地域に開放したり、有機農業に正面から取り組み、実績を重ねている人もいた。

これらの仲間たちが集い「菜の花」の資源循環のリングを形づくれないかと「庄内菜の花の会」が結成された。会の発足について数人で声を掛け合ったところ、多くの仲間の賛同が得られ、菜の花の栽培者、有機農業者、養豚農家、自動車教習学園、木質ペレット製造会社、バイオ燃料製造会社、施設給食会社、ネット通販者、福祉関係者、自然愛護団体、学識経験者と仲間の輪が大きく広がった。

活動は先述の取り組みに加え環境学習の支援活動がある。昨年は羽黒第三小学校で「ひまわり」を栽培して環境学習に取り組み、事前学習やBDF施設見学などを通じ、ひまわりの収穫、種取り、油絞体験、そして絞った油を使って学校田で育てたさつまいも料理の「親子お楽しみ会」を催し、あわせて「ひまわりの紙づくり」を行った。今年度は、羽黒第



庄内菜の花の会 会長

難波 真一 (なんば・しんいち)

1949年新庄市生まれ、中学2年より鶴岡市で育つ。1971年日本大学卒業後、浄化槽メーカーに就職、1974年鶴岡に戻り、庄内環境衛生事業(株)に入社。1984年より代表取締役社長に就任。2008年8月より「庄内菜の花の会」会長。

〒997-0018 鶴岡市茅原町29番23号
TEL 0235-22-2244・FAX 0235-23-2209

組む環境保全 優しい地域づくり

三小学校、そして新たに田川小学校で「ひまわり」の資源循環を題材として環境学習に取り組んでいる。羽黒第三小学校で昨年「ひまわり茎による紙づくり」を行ったが、資源の循環、有効利用という観点に着目しながら、「ひまわり紙づくり」を福祉施設等での事業化に展開できないか検討を進めている。

マイナスをチャンスに変える

菜の花の栽培から食用油としての販売までの一連の事業は、菜の花の作付けに対する助成金なしでは成り立たないのが現状である。このため、環境問題への理解が得られても、菜の花栽培が地域に急速に広まるということは難しい。この点は行政をはじめ、農協や農業関係者との連携・協力を深めていかなければならないと思っている。その一歩として、これまで三川町との話し合いを進めた結果、町ではこの4月より全戸から廃食油の回収を行いBDF化して、町の資源回収車で使用するというシステムが生まれた。

菜の花やひまわりの栽培、収穫には、機械力または多くの人手が必要となる。栽培による対価収入が得られないため、多額の費用が発生する機械力の使用はできず、これらの作業にはボランティアの助けが欠かせない。「菜の花」「ひまわり」の栽培が事業として成立しないことをマイナスとせず、むしろ環境問題を広く理解して頂けるチャンスと捉えている。

時間はかかるかもしれないが、環境ボランティアの結集の働きかけを行っていきたいと思っている。その道の先には、地域には景観植物として「ひまわり」を栽培している方々も多いことから、みなさんが栽培した「ひまわり」の種や茎の提供を得て、食用油やBDFの原料化、また「ひまわり紙」の原料としての活用という輪の広がりも見えてくるかもしれない。そのことがひとつの地域づくり、また環境問題への着実な取り組みでもあり、福祉の応援でもある。

目指せ「地球環境に優しい庄内」

「庄内菜の花の会」の活動は、まだ一年足らずだが、庄内総合支庁からは会の活動をビジネスとして発展させて欲しいという願い・激励を含め「庄内バイオマス利活用ビジネス支援事業」として、離職者の雇用創出事業の委託を受け、この春より会で1名の雇用を行い活動の充実化に努めている。また、菜の花の資源循環が図られているということで、会の活動が「庄内アース・フレンドリー・システム」として山形県リサイクルシステム認証を得たところである。「アース・フレンドリー」とは、言うまでもなく「地球にやさしい」「地球と友だち」「地球とともに」という意味合いで名づけられた。会の名称は「菜の花」を冠しているが、狭い意味での「菜の花」の活用に留まるのではなく、そこを出発点として地球温暖化防止、二酸化炭素排出削減、地域環境の問題、資源の有効利用、バイオエネルギーの広範な活用など「地球環境にやさしい庄内」を合言葉に幅広く取り組んでいきたい。